

# 丹波焼の里 ミュゼシター

2021  
autumn  
winter  
vol.  
30

発行：やきものの里プロデュース倶楽部



丹波の手仕事 匠の技 16

丹波 源右衛門窯 「墨流し」 市野 晃司氏  
太郎氏

虚空蔵山～丹波焼の里へ

金子潤 《無題》 2005～2007年

インタビュー

将来の丹波焼の産地として…

丹波立杭陶磁器協同組合理事長

市野 達也氏

市野 晃司 作 墨流し碗

丹波の手仕事

## 匠の技 16

丹波 源右衛門窯 「墨流し」

市野 晃司氏・太郎氏

上立杭の地で15代続く市野家が焼き物を始めたのは、江戸時代だと伝えられています。明治になってから江戸時代にご先祖が名乗っていた名前をとって、源右衛門窯と命名されたそうです。源右衛門窯は、兵庫県文化財に指定されている丹波焼最古の窯を、5軒の窯元の共同窯として明治28年に築窯されて以来、丹波立杭陶磁器協同組合に管理が移管されるまでの百年以上の長きに渡り代々使い続けてきました。近年までは、丹波①窯との2軒の共同窯として焼成を行っていました。



晃司氏以前の源右衛門窯は、植木鉢や硫酸瓶など型物作品中心の窯元でしたが、晃司氏が家業を手伝いだした頃には、陶器の素朴さと実用性が見直され、丹波焼でもろくろ成型の器の生産が増えてきていました。晃司氏は、家業の手伝いを終えてから夜遅くまで、陶芸でろくろ技術の習得に励み、5年間の修行の後、源右衛門窯で伝統的な鍋や墨流し文様の器を制作するようになりました。

歴史を感じさせられる土壁の工房で、墨流しの作業を見せていただきました。墨流しは、高台削りの終わった器に白化粧を掛け、その上にスポイトで白化粧とベンガラを置いて、高台を持った手をくると回すと、流紋が現れます。その流れ方は、白化粧やベンガラの堅さ、そしてその日の湿度の違いでも変わります。それでこの作業は、天気の良い日に行われます。

長男の太郎氏は、多治見の器作りで有名な黒岩卓実氏に師事し、帰郷後、美濃の技術を応用した、新しい丹波焼に挑戦されています。太郎氏の作品は、水玉や市松模様などポップなものも多く、最近では、タロリアンブルーの器にも人気が出ています。一見、丹波焼らしくないので「土は丹波とは違うのでしようね」と、問いかけると「いやいや、まるっきりに丹波土ですよ」と丹波焼への愛着が感じられました。また、これからの丹波焼について、お伺いしたところ、「八百年も九百年も続いてきた産地なので守っていったらなと思っています。これからは丹波の土にこだわった、現代のライフスタイルに合った、軽くておしゃれな器を作り続けていきたい」と今後の抱負を語ってくださいました。



丹波 源右衛門窯 市野晃司・太郎

T 669・2135

兵庫県丹波篠山市今田町上立杭451

電話 079・597・2650

文・植田 正実

写真・迫田 隆

# 虚空蔵山へ 丹波焼の里へ



丹波篠山市今田町立杭地区にある丹波焼の里。窯元が立ち並ぶ通りに、丹波焼最古の登窯がある。この窯の築窯に「まくら」といわれる日干しレンガが使われていて原料は山土。土台となっている「育て石」は山にある丹波石が使われている。47mあるこの窯は山の斜面に張り付くように築かれていて「ハチノス」と呼ばれる火先（窯の先のほう）まで登って振り返ると向かいにも美しい山がある。虚空蔵山である。この山には虚空蔵寺があり向こう側にJR藍本駅があるらしい。そこから登って丹波焼の里を見てみたいと思った。

JR藍本駅を出て三田方面へ歩くと酒滴神社がある。旅の無事を祈願して進むと広い道にあたる。これを右に折れると両側に田植えを終えたばかりの水田が広がっていた。正面には山々が連なり奥のほうに見えるのが虚空蔵寺のある虚空蔵山だ。ここは参道であったのだろうか。広くまっすぐな道はのどかであるが厳かな気持ちになる。高速道のトンネルを抜けると登山口に至る。ここから急な坂道に

なり息が上がる。少しなだらかなところに出ると右に谷水が流れていて「石舟（霊水）虚空蔵寺へお参りの方はここで手を清めてください」とある。冷たい水で手を清めて山道をしばらく登ると空が急に明るくなり屋根が見えきた。数十段の石段を登りきると立派なお堂が姿を現した。虚空蔵寺である。ここは聖徳太子の夢のお告げで建立された寺だとか。寺のいわれを書いた看板を読みながら汗を拭いて休憩。創建当時は七堂伽藍があったが、その後衰退し再建されたものの、明智光秀により焼失。村人の尽力で再建されたが廃仏毀釈で、今では本堂を残すのみとなっている。このあたりの山々には中腹に寺院跡があり山頂には山城跡があるところがいくつかある。この地の歴史の深さを感じる。

ここからまた急な坂道がしばらく続き、最もキツイ坂を登り切ると山頂と陶の郷への分岐に出る。ゴツゴツした岩がいくつもありそこを抜けるとやっと虚空蔵山の山頂だ。岩の上に立つと汗ばんだ体に風が心地いい。天気によければ明石海峡大橋が見える眺望の良い場所である。このあたりの石や岩が「育て石」に使われている丹波石である。しばし眺めを楽しんで先ほどの分岐点に戻り陶の郷への急坂を降りる。下山途中の見晴らしのいいところでは今田の集落が見え、丹波焼窯元

群も見える。運が良ければ登窯からの煙が見えるはずなのだ。

急坂を下ると植林の道となりほどなく陶の郷へ入る。陶の郷にはレストランもあり、窯元横丁では50数軒の窯元の陶器が購入できる。隣には兵庫陶芸美術館があり、白壁の外観は背にした虚空蔵山の緑に映えて美しい。

四斗谷川を渡ると赤い鳥居が見えた。そこに「おみの木」という樹齢三百年とも五百年ともいわれるアベマキの木があり天然記念物に指定されている。古樹のパワーを感じながらすぐ横を見ると最古の登窯があった。前の道は「窯元通り」。ギャラリィをのぞいたり、のんびりとした里山の風景を楽しんで、帰りはJR相野駅までバスに乗りJRへの乗り換えとなる。

初夏には水田が輝き秋には紅葉が美しい。里山の自然と焼き物に触れる一日となるはずだ。

（バスの本数は少ないので陶の郷で確認を）  
☆JR藍本（1時間）～虚空蔵寺（50分）～山頂（1時間10分）～陶の郷  
時間は目安。行動にはゆとりをもって。服装や靴は山歩きに適したもので☆

文・写真 上田智津子  
写真 寺岡紘三・迫田 隆



## 金子潤 《無題》

2005～2007年

兵庫陶芸美術館のエントランス棟前に、新たなシンボルとなる巨大な作品が登場しました。これまでの陶芸のイメージを打ち破る高さ約2.6mの大きな頭部は、アメリカ在住の日本人作家・金子潤氏（1942～）による陶作品です。いち早く金子氏の作品に注目し、日本に紹介してきた大阪の画廊主によって、このたび当館に寄贈されました。金子氏は1963年、絵画を学ぶために渡米しますが、当時、活況を呈していたアメリカ現代陶芸と出会い、陶による立体制作へと向かいました。カルフォルニア大学で巨匠ピーター・ヴォーコスに学ぶなど、最新鋭のアメリカ現代陶芸に触れながら、独自の創造を追求していた金子氏は、1983年、ネブラスカ州オハマにあるレンガ工場での制作の機会を得て、「オハマプロジェクト」を開始します。レンガ用の巨大な窯を利用して生まれたのが、コロンと丸みを帯びた巨大な立体作品《ダンゴ》シリーズでした。

金子氏といえば、シンプルで抽象的なフォルムにストライプやドットなどを施したカラフルな作品で知られていましたが、《無題》は、金子氏にとって初めて、「人の頭」という具体的なモチーフに取り組んだシリーズの一つでした。「人」という普遍的なテーマが加わることで、そこには生命感や深い思索が感じられ、見る者の想像力をぐっと引き寄せるものとなりました。本作品は2008年にニューヨーク52番街のパークアヴェニューで3ヶ月間展示された後、海を渡り、時を経て、ここ丹波篠山の里山にやって来ました。

学芸員 マルテル坂本敦子

# 将来の丹波焼の産地として…

interview

丹波立杭陶磁器協同組合

理事長 市野 達也 氏

《プロフィール》

1962年 今田町立杭に生まれる  
1985年 京都芸術短期大学絵画工芸専攻科卒業  
1986年 伝市窯親子展(日本橋高島屋、東京)  
1996年 台湾各地で伝統工芸の技術指導



令和三年度、新しく丹波立杭陶磁器協同組合の代表理事(理事長)に就任された市野達也氏(市野伝市窯)にお話を伺いました。

「この大変な時期の理事長就任ですが抱負をお聞かせください。」

就任前から役員を経験させていただきました。その中で変更すべきことや継続させていくことを考えていました。

今、二本の柱を主に考えています。

一つ目は、坏土工場の老朽化です。委員会を立ち上げてどういう形でやるかということを検討しています。将来的に関わってくることを研究や視察をしつかりと行い、そして丹波焼の工場というものを考えて行きたいと思っています。土工場の老朽化の影響で作品に不具合が生じることがあります。窯元さんに土の安定供給をするために、根本から考え計画をして委員会での議論を行っています。

二つ目は、和室修繕委員会です。陶の郷の中にある和室の改修計画がありました。コロナ禍でネット販売が好調になり、「丹波のイロドリ」の販売がこれまで以上の売り上げになって、今もそれが続いている状態にあります。しかし現在のままではネット販売の規模に限界が来るのではないかと感じています。そのためこの和室をネット販売の拠点にしてはということ、場所とシステムを陶の郷・組合の本拠地に統一させる事を考えています。そこで担当の職員を配置して、ネット販売が円滑かつ充実させる仕組みを考えて行きます。年配の組合員やネット環境が充実し

ていない方、大きく言えばネット販売環境を組合で補うことにより器作りに集中できるような環境を作りたいたいと考えています。組合員が作品を陶の郷へ持って行くだけで完了する仕組みを委員会で作っています。

「陶器まつりについてはどうしていいこうというお考えですか。」

今年も10月7日から10月24日の3週間という期間で、3週のうち9日・16日の2週が陶の郷での土曜日、23日の土曜日が陶芸美術館下の道路での軽トラ市を予定しています。昨年も土曜市を開催しましたが、軽トラ市は集客増が見込めるイベントというところで、今回はやらせていただこうかなと考えています。

コロナ禍でのイベントというところで期間を長く延ばして、ゆっくりと楽しんでいただくのが一番いいのではという結論です。2日間に集中させるのではなく3週間のうちの数日をイベント日にして、コロナ禍でも楽しめるイベントを考えて行きたいです。

「丹波焼の里の活性化については。」

丹波焼の里を活性化させる為には組合だけでなく陶芸美術館とも連携をとって進めていきたいと思っています。今までは最古の登窯をシンボルとしてやってきましたが、最古の登窯を本当にシンボルにするならば、美術館と連携して進めていきたいと思っています。

「陶の郷」でやっているイベントでも、組合員だけでなく、広く意見を聞きながら企画していくことでより良いイベントを提案して

いけると思っています。

「将来に向けての丹波焼の位置づけというようなものは。」

よく話題に挙げられます。現在50軒の組合員の窯元がいます。10年後20年後、丹波焼の窯元が減っていったらどうと予想されます。現状のことも大事ですが、将来ここに若い子たちが帰ってきてくれる産地作りも大切です。また、ここで弟子が入ってきてもらえるような人たちがここに定住し丹波焼を継承してくれるような仕組みまで考えたいと思っています。

現在も数件の窯元に弟子に来てくれる若い人たちがいます。これからの展開の一つとしてその方たちが陶の郷で販売ができる仕組みや丹波の土が購入できるなどの事も考えています。ここ立杭の地で仕事が出来るように整備していくことも少しずつ考えて行きたいです。

他所からでも丹波が好きで、ここで仕事がしたい、ここで何かをやりたいという思いがある人を受け入れる体制を作る事も大切です。後継者を育てるのが難しいというより受け入れる体制が出来ないから、なかなか入りにくい事もあると思います。また仕組みだけでなく受け入れ側の体制や気持ちも勉強していくべきだと思います。とにかくこの1年目はいろんな勉強会をさせてもらおうと思っています。

将来に向けて、丹波焼の次へのビジョンを持った思いをしっかりと語っていただきました。

聞き手・写真 迫田 隆

源泉かけ流しの日帰り天然温泉

コんだ薬師温泉  
女まじりの郷

緑に囲まれた広い露天風呂で  
ゆったり、のんびり、ほかほか。  
農産物直売所、軽食コーナーも併設、  
1日ゆっくりお過ごしください。



営業時間  
AM10:00 ~ PM10:00 (PM9:30 受付終了)  
※営業時間は変更になることがあります。

定休日 毎週火曜日 (祝日は営業)

〒669-2153  
兵庫県丹波篠山市今田町今田新田 21-10  
TEL.079-590-3377

<http://yume-konda.com/>

◆ 入浴料 ◆  
大人 700 円  
(中学生以上)  
小人 300 円  
(小学生)  
※小学生未満 無料



●特別展のご案内

ザ・フィンランドデザイン展

—自然が宿るライフスタイル—

2021年9月11日(土)～11月28日(日)

北欧国フィンランドが近代化していく時代のデザインの歩みとその展開を、世界的な影響をもたらしたテキスタイルやガラス工芸作品を中心に、陶磁器や家具類、さらに同時代の絵画、写真資料なども合わせてご紹介します。

ビルゲル・カイピアイン 《「パラティシ」プレート他》  
1969～1974年 アラビア製陶所 ヘルシンキ市立博物館蔵  
Photo/Yehia Eweis



やきものの模様 —動植物を中心に—

2021年12月11日(土)～2022年2月27日(日)

やきものに表現された「模様」を、動物、鳥、魚、花などに分けて紹介するとともに、それに込められた願いや思い、さらには生み出された過程、アート(美術)とサイエンス(自然科学)の双方の眼で観察します。

丹波 《色絵立鶴文徳利》(1対)  
江戸時代後期 兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション) 兵庫県指定重要有形文化財



オールドノリタケ×若林コレクション

—アールヌーヴォーからアールデコに咲いたデザイナー—

2022年3月19日(土)～5月29日(日)

明治時代中期から昭和時代初期にかけてアメリカを中心として海外に輸出された西洋風の陶磁器オールドノリタケ。本展では、日本屈指のオールドノリタケコレクションである若林コレクションから、多彩な色や形、技法によって生み出された花瓶や壺、テーブルウェアなどを紹介します。

オールドノリタケ 《色絵金盛番薇文飾壺》  
1891～1921年 個人蔵



●テーマ展のご案内

2021年度著名作家招聘事業×テーマ展

八代 清水六兵衛展

2021年12月11日(土)～2022年2月27日(日)

江戸時代中期から約250年続く京都の陶家・清水六兵衛家の当代である八代清水六兵衛氏(1954-)。建築を学んだ経験を活かし、図面に合わせて土の板を切り、パーツを結合させた構築的な造形に、焼成による歪みを意図的に取り入れた大型作品を中心に紹介します。



八代清水六兵衛 《RELATION 96-B》  
1996年 個人蔵 写真/齋城卓

丹波焼の世界 season 5

2021年3月13日(土)～2022年2月27日(日)

2017年に日本遺産に認定された日本六古窯のひとつに数えられ、800年以上の歴史を持つ丹波焼。変化しながらも現在まで続く丹波焼の世界をお楽しみ下さい。



丹波 《壺》  
室町時代中期  
兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション)  
兵庫県指定有形重要文化財

兵庫陶芸美術館 〒669-2135 丹波篠山市今田町上立杭4 電話:079-597-3961 (代表) HP <https://www.mcart.jp>

イベント案内

第44回 丹波焼陶器まつり「秋の郷めぐり」  
丹波焼の魅力あふれるイベントが開催されます。  
【期間】10月7日(木)～10月24日(日)

○陶の郷(丹波立杭陶磁器協同組合)

- ・どどつと土曜日 10月9日(土)・16日(土)
- ・チャリティイガチャポン 10月9日(土)・16日(土)
- ・グループ窯作陶展 期間中開催 ※土日祝のみ販売あり

○各窯元

- ・窯元めぐり市限定クーポン券
- ・期間中の平日、陶の郷にて抽選で当たった方に配付
- ・丹波焼宝くじ
- ・期間中2000円の購入で一枚進呈○軽トラ市 10月23日(土)

○兵庫陶芸美術館

- ・期間中の各土曜日10月9日・16日・23日は、先着50名様に丹波焼小皿をプレゼント
- ・陶芸文化プロデューサー活動紹介イベント
- ・作品展示、秋の味覚、最古の登窯案内など
- 10月16日(土)・17日(日)

○ぬくもりの郷

- ・「郷めぐり」特別入浴券を陶の郷にて販売
- 10月9日(土)・16日(土)

◆2つの日本遺産《丹波焼の里と篠山城下町》を結ぶ

直通バス(期間限定)

- 料 金:区間最大500円
- 運行日:11月28日(日)までの土日祝
- 料 金:区間最大500円

丹波焼の里情報コーナーのご案内

「暮らしを楽しむ丹波焼— FRESH TAMBA」

2021年12月10日(金)～2022年2月27日(日)  
兵庫陶芸美術館 展示棟入口横 観覧無料  
企画:陶芸文化プロデューサー  
協力:丹波焼窯元等

プレゼントのお知らせ

兵庫陶芸美術館・陶の郷・こんだ薬師温泉の招待券を3施設セットでペア5組10名様にプレゼント。

- 応募方法  
ハガキに 〒住所・氏名・年齢・本紙の入手場所(○○美術館など)・ご意見、ご感想をご記入の上、下記の宛先までお送りください。
- 締め切り  
2022年2月末日消印有効。応募多数の場合は抽選。
- 宛先  
〒669-2135 丹波篠山市今田町上立杭4  
兵庫陶芸美術館内「陶芸文化プロデューサー」宛  
なお、ご応募頂いた方の個人情報には当選者への発送、本紙企画の参考以外の目的には使用いたしません。また当選発表は発送をもってかえさせていただきます。

丹波伝統工芸公園

立杭 陶の郷

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭3  
TEL.079-597-2034 FAX.079-597-3232  
URL.<http://www.tanbayaki.com/>  
【入園料】高校生以上 200円  
小中学生 50円  
【開園時間】AM10:00～PM5:00 (通年)  
【休園日】年末年始  
毎週火曜日  
(但し、祝日は営業します。)

丹波焼を『見る・作る・楽しむ』

窯元横丁

丹波焼の50軒の窯元の作品を買うことが出来る「窯元横丁」。どこか懐かしくあたたかな空間で、ゆったりと買い物をお楽しみいただけます。伝統的な丹波焼からアーティスティックな作品まで、さまざまなやきものが展示販売されています。一つひとつの作品をじっくり手にとりながら、散歩気分歩いてみてください。見ているだけでも楽しくなりますよ。

陶芸教室

丹波焼の郷で、陶芸体験してみませんか。小さなお子様からご高齢の方でも、手びねり(粘土細工)や絵付け体験に挑戦していただけます。釉薬をかけて焼き上げてから、ご自宅まで宅配便で発送いたします。あなただけのオリジナルやきものをつくってみるのも楽しいですよ。